



学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

厚生労働省指定養成施設

介護福祉学科

2021年度 シラバス

授業評価の基準

授業では、以下に挙げる方法と基準により授業評価を行う。

1 授業評価の方法

各科目の学修成果は、前期及び後期末に行う筆記試験又は実技試験の得点をもって評価する。科目によっては、受講態度や課題の提出状況、小テスト、中間試験等により数値化した得点（平常点等）を試験素点に加減することで評価する（平常点等を考慮する科目はシラバスに記載する）場合もある。

また、各授業における欠席の上限を定めており、この時間を超えて授業を欠席した者には当該科目の試験の受験資格を与えず、単位不認定とする。

なお、授業開始後 30 分を経過するまでに教室に入室した者は「遅刻」、授業終了の定刻前に教室を退室した者は「早退」とし、遅刻及び早退の累計が 3 回となった場合は 1 回の欠席とする。

2 授業評価の基準

試験の結果（得点）により、以下の基準で評価する。ただし、これとは別に基準を設定して評価を行う場合には別途授業計画（シラバス）に記載し、またその旨担当教員が授業において告知する。

試験の得点	評価と単位認定
80～100点	評価「優」 単位を認定する。
70～79点	評価「良」 単位を認定する
60～69点	評価「可」 単位を認定する。
60点未満	評価「不可」 単位を認定しない。

なお、本試験の得点が60点未満だった者については再試験を実施し、再試験の得点が60点以上だった者については、評価を「可」として単位を認定する。それ以外の者には単位を認定しない。

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	人間の尊厳と自立			担当者	重田 美智子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」(中央法規出版)						
科目概要	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活場面から自立に関する基本的な考え方、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。 2. 人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷を知る。 3. 権利擁護の考え方を理解する。 4. 介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。 5. 介護福祉士としての職業倫理観を身につけることができる。 						
評価方法	客観(筆記) 試験実施。各授業において、関連内容の提出物を求める。(筆記80%、提出物20%)						
課題に対するフィードバック	試験終了後、答案を返却し、60点以下の学生においては、オリエンテーション実施後再試験を実施する。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	この科目においては、国家試験の出題数は、少ないが社会問題や時代を反映した内容の出題があるため常にニュースや新聞などをチェックしておく必要がある。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス	人間の理解 人間の尊厳と自立を学ぶにあたり	
2	人間の尊厳と理念	“尊厳”とは・“尊厳を守る”とは 人間の尊 厳と人権・福祉理念	
3	倫理	生命倫理の5原則	
4	演習	介護現場における“生命倫理”を考える①	
5	演習	介護現場における“生命倫理”を考える②	
6	身体拘束	種類・背景・介護福祉士としての関わり	
7	演習	身体拘束と尊厳の保持	
8	自立	自立の概念・意味・歴史	
9	自立と自律	義務から権利へ	
10	演習	介護現場における自立支援について①	
11	演習	介護現場における自立支援について②	
12	虐待	虐待の種類・背景・介護福祉士としての関わり	
13	“死”について	“死”から考える“生”や価値観の多様性	
14	“尊厳死”と“安楽死”	事例検討	
15	まとめ	1～14のまとめ、国試対策	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
学科名	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次	1年
科目名	人間関係とコミュニケーション				担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座1「人間と社会」(中央法規出版)							
科目概要	<p>1.対人援助に必要な人間関係を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を身につける。</p> <p>2.介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。</p>							
到達目標	<p>1.人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。</p> <p>2.介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し習得できる。</p>							
評価方法	<p>各期末に筆記試験を行う。また、授業への取り組み姿勢を点数化し、筆記試験の得点に加点する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>							
課題に対するフィードバック	<p>授業前に、前回の復習テストを実施し、授業内容の習熟度を確認する。自己採点しテキストの該当箇所を確認を行う。テストは返却し、再度自己学習の課題とする。</p>							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<p>他者とのコミュニケーションを目的とし、開かれた姿勢で授業に取り組むことを望む。</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	学習のねらい、評価方法 人間関係を形成するためのコミュニケーション	
2	人間関係の形成とは 人間と人間関係①	人間らしさのはじまり、自分と他者の理解 ジョハリの窓、〈演習〉認識のずれ	
3	人間と人間関係②	人間関係を形成するために必要な心理学的支援（発達心理学からみた人間関係）	
4	人間と人間関係③	人間関係を形成するために必要な心理学的支援（社会心理学からみた人間関係）	
5	人間と人間関係④	〈演習〉少数派が集団を変えるためには 人間関係とストレス、自己分析	
6	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	コミュニケーションの概念 コミュニケーションの基本構造	
7	対人関係における コミュニケーション①	コミュニケーションの手段 〈演習〉関係性によるあいさつの違い	
8	対人関係における コミュニケーション②	言語的・非言語的コミュニケーション 〈演習〉非言語コミュニケーションの種類	
9	対人関係における コミュニケーション③	人間関係を形成するためのコミュニケーション機能	
10	対人援助関係と コミュニケーション①	対人援助の基本となる人間関係と コミュニケーション、〈演習〉アサーティブコミュニケーション	
11	対人援助関係と コミュニケーション②	対人援助における基本的態度 〈演習〉傾聴について考える	
12	対人援助関係と コミュニケーション③	援助的人間関係の形成と バイステックの7つの原則	
13	対人援助関係と コミュニケーション④	〈演習〉バイステックの7つの原則 〈演習〉ロジャースの理論と技法	
14	対人援助関係と コミュニケーション⑤	組織におけるコミュニケーション	
15	まとめ	前期のまとめ、振り返り コミュニケーションの意義や機能	

回	単元	内容	備考
16	介護実践における チームマネジメント①	ヒューマンサービスとしての介護サービス	
17	介護実践における チームマネジメント②	介護現場で求められるチームマネジメント 介護実践のマネジメントと組織の運営管理	
18	介護実践における チームマネジメント③	介護実践におけるチームマネジメントの 取り組み	
19	ケアを展開するための チームマネジメント①	ケアを展開するために必要なチームと その取り組み、〈演習〉チームの種類	
20	ケアを展開するための チームマネジメント②	チームでケアを展開するための マネジメント、〈演習〉情報共有の場	
21	ケアを展開するための チームマネジメント③	チームの力を最大化するためのマネジメント リーダーシップとフォロワーシップ	
22	人材育成・自己研鑽のため のチームマネジメント①	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	
23	人材育成・自己研鑽のため のチームマネジメント②	介護福祉職としてのキャリアデザイン	
24	人材育成・自己研鑽のため のチームマネジメント③	介護福祉職のキャリア支援・開発 人材育成や人材管理、OJTとOff-JT	
25	人材育成・自己研鑽のため のチームマネジメント④	介護実習とスーパービジョン 〈演習〉スーパービジョンの機能とは	
26	人材育成・自己研鑽のため のチームマネジメント⑤	自己研鑽に必要な姿勢 〈演習〉介護福祉士のキャリアイメージ	
27	組織の目標達成のための チームマネジメント①	介護サービスを支える組織の構造 組織の運営管理	
28	組織の目標達成のための チームマネジメント②	介護サービスを支える組織の機能と役割 介護サービスを支える組織の管理	
29	組織の目標達成のための チームマネジメント③	〈演習〉避難所運営ゲーム(HUG)	
30	まとめ	後期まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義	
学科名	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次	1年
科目名	社会と制度の理解				担当者	峯崎 隼人		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座2「社会の理解」(中央法規出版) プリント 厚生労働省「介護保険のしくみ」「障害者支援制度」							
科目概要	1.介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。 2.制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる。 3.地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる。							
到達目標	1.個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に習得できる。 2.対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。 3.日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについての理解を学ぶ。 4.高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度、施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。							
評価方法	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施、授業の取り組み姿勢を、それぞれ10%・80%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。							
課題に対するフィードバック	小テスト・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	授業毎において、テキストの演習問題や国家試験過去問題の実施するため、再復習を望む。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	生活と社会福祉	生活とは、社会と生活のしくみ	
2	生活と社会福祉	家族とは	
3	生活と社会福祉	地域社会と個人	
4	生活と社会福祉	人と社会、組織	
5	生活と社会福祉	現代におけるライフスタイルの変化	
6	生活と社会福祉	生活の支援と福祉の体系	
7	社会保障のしくみ	社会保障の基本的な考え方	
8	社会保障のしくみ	日本の社会保障制度の発達	
9	社会保障のしくみ	日本の社会保障制度の仕組み①	
10	社会保障のしくみ	日本の社会保障制度の仕組み②	
11	社会保障のしくみ	日本の社会保障制度の仕組み③	
12	社会保障のしくみ	現代社会と社会保障制度	
13	介護保険制度	介護保険制度創設の目的と動向 高齢者福祉と介護保険制度	
14	介護保険制度	介護保険制度の基礎知識	
15	まとめ	振り返り	

回	単元	内容	備考
16	介護保険制度	介護保険制度創設の目的と動向	
17	介護保険制度	介護保険制度のしくみ	
18	介護保険制度	介護保険制度にかかわる組織とその役割	
19	介護保険制度	介護保険制度における専門職の役割	
20	介護保険制度	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア	
21	障害者の支援を担う法制度	障害者の自立、障害者福祉と障害者保健福祉制度	
22	障害者の支援を担う法制度	障害者自立支援制度創設の目的と動向	
23	障害者の支援を担う法制度	障害者自立支援制度のしくみ	
24	障害者の支援を担う法制度	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割	
25	障害者の支援を担う法制度	障害者福祉施策のゆくえ	
26	介護実践にかかわる諸制度	人々の権利を擁護する諸制度 地域共生 社会の実現 に向けた制度や施策	
27	介護実践にかかわる諸制度	保健医療にかかわる法と諸施策	
28	介護実践にかかわる諸制度	生活を支える諸制度のあらまし	
29	介護実践にかかわる諸制度	高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度	
30	まとめ	振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	キャリアデザインⅠ			担当者	石塚 康弘 秋野 泰治		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	全経簿記能力検定試験基礎簿記会計 テキスト & 問題集						
科目概要	介護福祉士として、様々な事務能力の知識を学ぶことでキャリアアップを図り、視野を広げることを狙いとする。また、就職し、将来管理者的立場となった時などを見据えて、経営的感覚を身に付けておくために、最低限の知識としての簿記の初歩を学び、経理の基礎知識を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 借方、貸方の理解 2 仕訳と元帳の仕組みの理解 3 損益計算書、貸借対照表の作成とその役割の理解 						
評価方法	筆記試験を行う。60点以上を合格とし、単位認定を行う。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	電卓（12ケタ）の用意。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	簿記とは	簿記の考え方、介護福祉士として学ぶ意義 介護職と経理の関わりについて	
2	貸借対照表	資産、負債、純資産のしくみ	
3	損益計算書	収益、費用のしくみ 純利益の出し方	
4	仕訳	仕訳のルールを学ぶ	
5	仕訳帳と元帳①	仕訳帳の記入	
6	仕訳帳と元帳②	総勘定元帳への転記と役割	
7	決算①	試算表の作成	
8	決算②	精算表、損益計算書、貸借対照表の作成	
9	決算③	損益勘定と総勘定元帳の締切	
10	現金と預金	現金、普通預金勘定について	
11	商品売買	分記法、掛取引について	
12	貸付、借入 有形固定資産	貸付金および借入金と利息の処理 土地、備品、建物、車両運搬具勘定について	
13	引出金の処理	資本金の考え方および引出金勘定の役割	
14	費用と収益	費用、収益それぞれの科目の種類について	
15	まとめ	1～14回のまとめ	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	生活表現			担当者	重田 美智子 井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	各内容による(手芸用品、各食材、等)						
科目概要	高齢者や障害者のアクティビティ、年代別の流行や郷土料理や菓子、工芸品などに触れ、物作りを体験することで、よりよい生活を表現する手法を学ぶ。						
到達目標	<p>1.高齢者や障害児者の生活上の不便さを理解したうえで、楽しく取り組める余暇活動を体験する。</p> <p>2.制作意欲を高め、達成感や成果を感じることへの喜びが、生きがいや役割とどのように作用するかを理解できる。</p> <p>3.自らの感性や視点から、介護現場等で新たに取り組めるアクティビティを工夫し、その人に合った生活表現を考案できる。</p>						
評価方法	制作への取り組みや提出物(作品やレポート)により、総合的に判断し60点以上を得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、課題や制作物の再提出。(学則に準じて評価)。						
課題に対するフィードバック	提出物(作品やレポート)においては随時返却し、評価していく。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	身近な生活にある物や人に対して、常に興味・関心を持ち、介護福祉士としての感性を磨くことでより広い視野を持ち日常生活の支援網力を向上させる。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう1	書道クラブ、仮名文字や般若信教を書いてみよう！	
3	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう2	舞踊クラブ、レクリエーション体験	
3	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう3	脳トレ・ゲームクラブを体験してみよう	
4	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう4	映画クラブ体験(昭和の映画鑑賞を通してその時代を知る)	
5	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう5	大人のぬり絵体験、折り紙体験	
6	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう6	レジンアクセサリーづくりを体験してみよう	
7	障害児者・高齢者施設のクラブ活動を体験してみよう7	お部屋の装飾品を作ってみよう カレンダーづくり、バースデイカードづくり	
8	郷土お菓子作り	お饅頭作り(重曹・草餅)	
9	郷土お菓子作り	お饅頭作り(重曹・草餅)	
10	キャンドル作り	アロマキャンドル、色キャンドル作り	
11	キャンドル作り	アロマキャンドル、色キャンドル作り	
12	洋菓子作り	クッキー・マドレーヌ作り	
13	洋菓子作り	クッキー・マドレーヌ作り	
14	身近な裁縫技術	ランチクロス作りからボタン、 繕い技術を習得	
15	身近な裁縫技術	ランチクロス作りからボタン、 繕い技術を習得	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	エクササイズ			担当者	原田 恵子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材							
科目概要	<p>さまざまな運動の実技を通して、心身の健康で調和的な発達を促し、健康についての自主的、主体的な実践力を育成する。また、生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習を通して、健康と運動について理解を深め、社会的、文化的価値について理解を深めとともに、仲間とのコミュニケーションを深めていく。</p>						
到達目標	<p>1・身体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、自らコミュニケーションをとって意欲的に活動することができる。 2・生涯にわたって健康の保持増進のための自己管理能力を身に付けるとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p>						
評価方法	<p>①授業中の意欲・関心・態度 ②技能 ③思考・判断 ④出席状況の4観点を点数化し総合的に判断する。総合点60点以上得点したものに単位を認定する。 評価基準・・・80点以上 A、79～70点 B、69～60点 C、60点以下は科の判断にてレポート及び補習実技にて認定する。</p>						
課題に対するフィードバック							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	動きやすい服装で臨むこと。その都度伝える。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス	体を動かすということ ストレッチ／体づくりトレーニング	
2	生命の基本	体の基本、生命の源とは	
3	運動実技	用具を使わな多種多様な運動	
4	運動実技	用具を使った多種多様な運動	
5	運動実技	用具を使った多種多様な運動	
6	運動実技	用具を使った多種多様な運動	
7	運動実技	筋力／柔軟性／持久力を高める運動	
8	運動実技	筋力／柔軟性／持久力を高める運動	
9	運動実技	体育祭	
10	運動実技	筋力／柔軟性／持久力を高める運動	
11	運動実技	筋力／柔軟性／持久力を高める運動	
12	運動実技	有酸素運動系運動	
13	運動実技	有酸素運動系運動	
14	運動実技	有酸素運動系運動	
15	まとめ	総合評価／実技試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	こころとからだのしくみⅠ			担当者	根岸 妙子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」 (中央法規) プリントを用いた講義。講義ごとに演習問題を配布。						
科目概要	介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」とは何かを述べることができる。 2. 人間の欲求の基本的理解ができる。 3. 自己概念と尊厳が理解できる。 4. 心のしくみが理解できる。 5. からだのしくみが理解できる。 6. 生命を維持するしくみが理解できる。 						
評価方法	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 評価規定については、学科に規定に準ずる。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	新聞、テレビ、インターネット等には、介護に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	「健康」とは何か	健康とは	
2	「健康」とは何か	健康を阻害する要因	
3	こころのしくみの理解	人間の欲求の基本的理解	
4	こころのしくみの理解	自己実現と尊厳	
5	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 ①	
6	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 ②	
7	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 ③	
8	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ①	
9	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ②	
10	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ③	
11	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ④	
12	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ⑤	
13	からだのしくみの理解	からだのしくみの基礎 ⑥	
14	からだのしくみの理解	薬の知識	
15	まとめ	確認試験	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	1年
科目名	こころとからだのしくみⅡ			担当者	根岸 妙子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 1 1 「こころとからだのしくみ」 (中央法規) プリントを用いた講義。講義ごとに演習問題を配布。						
科目概要	<p>1. 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。</p> <p>2. 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。</p>						
到達目標	<p>1. 生活支援を行うための、移動・身じたく・食事・入浴や清潔保持・排泄・休息や睡眠に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p> <p>2. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p>						
評価方法	<p>定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。</p> <p>評価規定については、学科に規定に準ずる。</p>						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	新聞、テレビ、インターネット等には、介護に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	移動に関連したところとからだのしくみ	移動のしくみ ①	
2	移動に関連したところとからだのしくみ	移動のしくみ ②	
3	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	
4	移動に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
5	移動に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
6	移動に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
7	身じたくに関連したところとからだのしくみ	身じたくのしくみ ①	
8	身じたくに関連したところとからだのしくみ	身じたくのしくみ ②	
9	身じたくに関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	
10	身じたくに関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
11	身じたくに関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
12	身じたくに関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ②	
13	食事に関連したところとからだのしくみ	食事のしくみ ①	
14	食事に関連したところとからだのしくみ	食事のしくみ ②	
15	食事に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	

回	単元	内容	備考
16	食事に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
17	食事に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
18	食事に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ②	
19	移動・身じたく・食事に関連したところとからだのしくみ	まとめ・確認試験	
20	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ ①	
21	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ ②	
22	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	
23	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
24	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
25	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ②	
26	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ ①	
27	排泄に関連したところとからだのしくみ	排泄のしくみ ②	
28	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	
29	排泄に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
30	排泄に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	

回	単元	内容	備考
31	排泄に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ②	
32	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ ①	
33	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	休息・睡眠のしくみ ②	
34	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ①	
35	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響 ②	
36	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ①	
37	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	変化の気づきと対応 ②	
38	清潔保持・排泄・睡眠に関連したところとからだのしくみ	まとめ・確認試験	
39	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方①	
40	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方②	
41	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	「死」に対するところの理解	
42	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	
43	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期における医療職との連携 ①	
44	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ	終末期における医療職との連携 ②	
45	まとめ	確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1年
科目名	発達と老化の理解			担当者	根岸 妙子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 1 2 「発達と老化の理解」 (中央法規) プリントを用いた講義。						
科目概要	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。						
到達目標	1. 人間の成長と発達の基礎的理解ができる。 2. 老化に伴うこころとからだの変化と生活が理解できる。						
評価方法	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 評価規定については、学科に規定に準ずる。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、結果を担当に報告する。不合格者については個別に伝達する。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	新聞等には、介護に関する関連記事も多いので日頃からアンテナを立てておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	人間の成長と発達の基礎的理解	成長・発達の考え方 成長・発達の原則・法則	
2	人間の成長と発達の基礎的理解	成長・発達に影響する要因	
3	人間の発達段階と発達課題	発達理論 発達段階と発達課題	
4	人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達	
5	人間の発達段階と発達課題	心理的機能の発達	
6	人間の発達段階と発達課題	社会的機能の発達	
7	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義 老化とは	
8	老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題	
9	老年期の特徴と発達課題	老年期をめぐる今日的課題	
10	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響	
11	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	
12	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	
13	老化に伴うところとからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	
14	まとめ	1~14のまとめ 確認試験	
15	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	

回	単元	内容	備考
16	高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴 ①	
17	高齢者と健康	高齢者の症状・疾患の特徴 ②	
18	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨格系・筋系	
19	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系	
20	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系	
21	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系	
22	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系	
23	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系	
24	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系	
25	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系	
26	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患 悪性新生物（がん）	
27	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症	
28	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患 その他	
29	保健医療職との連携	多職種との連携	
30	まとめ	16～29のまとめ 確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1年
科目名	認知症の理解			担当者	根岸 妙子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 (中央法規) プリントを用いた講義。講義ごとに演習問題を配布。						
科目概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的機能に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心にすえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く状況が理解できる 2. 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解が理解できる。 3. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアが理解できる。 4. 多職種連携と協働が理解できる。 5. 家族への支援が理解できる。 						
評価方法	定期試験(60%)、授業に課す課題(20%)、学習態度及び課題の提出状況(20%)等で、総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。 評価規定については、学科に規定に準ずる。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	新聞、テレビ、インターネット等には、「認知症」に関する関連記事も多いので日頃から関心をもっておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	認知症サポーター研修	認知症サポーター研修①	
2	認知症サポーター研修	認知症サポーター研修②	
3	認知症の基礎的理解	認知症とはなにか	
4	認知症の基礎的理解	脳のしくみ	
5	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理	
6	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解	
7	認知症の症状・診断・治療・予防	生活障害の理解	
8	認知症の症状・診断・治療・予防	BPSDの理解	
9	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の診断と重症度	
10	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の原因疾患と症状・生活障害	
11	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の治療薬	
12	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の予防	
13	障害をかかえて生きることへの支援	認知症を取り巻く状況	
14	障害をかかえて生きることへの支援	認知症ケアの理念と視点	
15	障害をかかえて生きることへの支援	認知症当事者の視点からみえるもの	

回	単元	内容	備考
16	認知症ケアの実際	パーソン・センタード・ケア	
17	認知症ケアの実際	認知症のアセスメント・ツール	
18	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション	
19	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア	
20	認知症ケアの実際	認知症の人へのさまざまなアプローチ	
21	認知症ケアの実際	認知症の人の終末期医療と介護	
22	認知症ケアの実際	環境づくり	
23	介護者支援	家族への支援	
24	介護者支援	介護福祉職への支援	
25	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり	
26	認知症の人の地域生活支援	多職種連携と協働	
27	ラベルワーク	テーマ「認知症になっても安心して暮らすことのできる社会」	
28	ラベルワーク	テーマ「認知症になっても安心して暮らすことのできる社会」	
29	ラベルワーク	テーマ「認知症になっても安心して暮らすことのできる社会」	
30	まとめ	確認試験	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	2年
科目名	障害の理解			担当者	馬場先 淳子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 新・介護福祉士養成講座「障害の理解」13（中央法規出版） プリント（随時配布）						
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人の心理や 身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず 家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。 ・ 障害のある人の家族の支援、自己決定、エンパワメント、権利擁護、および、福祉用具の活用等、社会資源の活用方法について学ぶ。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解する。 2. さまざまな障害の医学的、心理的、生活、介護上の留意点を理解する。 3. 障害のある人の自己決定、エンパワメント、権利擁護、および、福祉用具の活用等、社会資源の活用方法について理解する。 						
評価方法	客観(筆記)試験を実施し、60点以上の者に単位を認定する。 (学則に準じて評価する)						
課題に対するフィードバック	試験の採点後、結果を担当に報告する。不合格者については個別に伝達する。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	各授業において、テキストの演習問題や国家試験に出題される内容を確認テストにより実施するため、事前学習をしておくこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	障害の基礎的理解	障害の概念	
2	障害の基礎的理解	障害者福祉の基本理念	
3	障害の基礎的理解	障害者福祉に関連する制度	
4	障害の基礎的理解	障害者福祉制度と介護保険制度	
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解	
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	肢体不自由（運動機能障害）	
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	視覚障害	
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	聴覚・言語障害	
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	重複障害	
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 心臓機能障害	
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 呼吸器機能障害	
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 腎臓機能障害	
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 膀胱・直腸機能障害	
14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 小腸機能障害	
15	まとめ	1～14のまとめ 確認試験	

回	単元	内容	備考
16	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	
17	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	内部障害 肝臓機能障害	
18	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ	重症心身障害	
19	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	知的障害	
20	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	精神障害	
21	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	高次脳機能障害	
22	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	高次脳機能障害	
23	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	発達障害	
24	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	難病	
25	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	難病	
26	連携と協働	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	
27	連携と協働	チームアプローチ、地域サポート体制	
28	家族への支援	家族への支援	
29	家族への支援	家族の介護力の評価と介護負担の軽減	
30	まとめ	16~29のまとめ、確認試験	

履修区分	必修	単位数	8	開講時期	通年	形態	講義	
学科名	介護福祉学科				配当時間	120	対象年次	1年
科目名	介護の基本Ⅰ（介護系）				担当者	井上 千帆 竹内 崇		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」（中央法規出版）							
科目概要	<p>1.介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。</p> <p>2.介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。</p> <p>3.各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。</p>							
到達目標	<p>1.複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。</p> <p>2.地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。</p> <p>3.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成を習得する。</p> <p>4.介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解できる。</p> <p>5.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できる。</p> <p>6.介護サービスの概要が説明できる。</p> <p>7.他職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を習得する。</p>							
評価方法	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施、授業の取り組み姿勢を、それぞれ10%・80%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。							
課題に対するフィードバック	専門用語・漢字テスト・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。							
履修要件（準備学習の具体的な内容）	授業毎において、専門用語・漢字テストや国家試験過去問題の実施するため、再復習を望む。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 第1章 介護福祉とは 介護の成り立ち①	「介護の基本」で学ぶべきこと、介護とは「介護」の誕生と「介護」の意味	
2	介護福祉の基本となる理念 第1章 介護福祉とは 介護の成り立ち②	介護の歴史と社会福祉政策、介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況の課題	
3	第1章 介護福祉とは 介護の成り立ち③	老人福祉法制定の背景と介護問題への対応	
4	第1章 専門職による 「介護」が誕生した背景	社会的な背景の変化、高齢化率の進展	
5	第1章 介護福祉とは 介護の概念の変遷①	1970年代、1980年代-介護福祉士法の成立	
6	第1章 介護福祉とは 介護の概念の変遷②	1990年代、2000年以降	
7	第1章 介護福祉とは 介護の概念の変遷③	措置制度から介護保険制度へ	
8	第1章 介護福祉とは 介護の概念の変遷④	介護福祉士の定義と業の変遷	
9	介護福祉の基本となる理念 第1章 介護福祉とは 介護福祉の基本理念①	尊厳を支える介護、QOLとは	
10	第1章 介護福祉とは 介護福祉の基本理念②	自立を支える介護	
11	介護福祉の機能と役割 第2章 介護福祉士の活動 の場と役割①	地域包括ケアシステム	
12	第2章 介護福祉士の活動 の場と役割②	介護予防	
13	第2章 介護福祉士の活動 の場と役割③	医療的ケア、人生の最終段階の支援 災害時の支援	
14	第2章 社会福祉士及び介護 福祉士法①	社会福祉士及び介護福祉士法	
15	前半のまとめ	まとめ、振り返り、小テスト	

回	単元	内容	備考
16	第2章 社会福祉士及び介護福祉士法②	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	
17	第2章 社会福祉士及び介護福祉士法（演習）	介護福祉士の義務規定	
18	第2章 介護福祉士養成カリキュラムの変遷	社会福祉専門職に求められる役割の拡大 介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待	
19	第2章 介護福祉士を支える団体	日本介護福祉士会、 日本介護福祉士養成施設協会、等	
20	第3章 介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理 尊厳ある介護実践 -事例による検討-	
21	第3章 介護福祉士の倫理②	プライバシーの保護と介護の倫理	
22	第3章 介護福祉士の倫理③	高齢者虐待と生命倫理	
23	第3章 介護福祉士の倫理（演習）	高齢者虐待について考える	
24	第3章 介護福祉士の倫理④	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応 -事例による検討-	
25	第3章 介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領	
26	第3章 介護福祉士の倫理⑥	日本介護福祉士会倫理基準	
27	第3章 介護福祉士の倫理⑦	職業倫理を考える	
28	第3章 介護福祉士の倫理（演習）	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践	
29	介護福祉士の倫理（演習）	介護の具体的場面における倫理的問題	
30	まとめ	総まとめと振り返り	

回	単元	内容	備考
31	介護を必要とする人の理解 ①	私たちの生活の理解	
32	介護福祉を必要とする人の 理解②	介護福祉を必要とする人たちの暮らし①	
33	介護福祉を必要とする人の 理解（演習）	高齢者の生活を理解する	
34	介護福祉を必要とする人の 理解（演習）	さまざまな人たちの生活を理解する	
35	介護福祉を必要とする人の 理解③	介護福祉を必要とする人たちの暮らし②	
36	介護福祉を必要とする人の 理解④	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 生活のしづらさの理解とその支援	
37	介護を必要とする人の生活 を支えるしくみ 介護サービスの概要①	居宅サービスの種類 (訪問系・医療系サービス)	
38	介護を必要とする人の理解介	居宅サービスの種類 (通所系・その他のサービス)	
39	介護サービスの概要③	居宅サービスの種類 (特定施設入居者生活介護と居住系住宅)	
40	介護サービスの概要④	施設サービスの種類	
41	介護サービスの概要⑤	地域密着型サービスの種類 地域支援事業	
42	障害者総合支援法による サービス①	介護給付の対象となるサービス①	
43	障害者総合支援法による サービス②	介護給付の対象となるサービス②	
44	障害者総合支援法による サービス③	訓練等給付の対象となるサービス	
45	まとめ	後期のまとめ、振り返り	

回	単元	内容	備考
46	障害者総合支援法によるサービス④	地域生活支援事業	
47	障害に関わるその他の法律	障害者基本法や諸制度との関係	
48	インフォーマルサービス①	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係	
49	インフォーマルサービス②	インフォーマルサービスの種類	
50	地域連携	地域連携の意義と目的 地域連携にかかわる機関の理解と実際	
51	協働する多職種の機能と役割①	多職種連携・協働の必要性	
52	協働する多職種の機能と役割（演習）	多職種連携・協働の必要性について考える	
53	協働する多職種の機能と役割②	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	
54	協働する多職種の機能と役割（演習）	チームケアとチームアプローチ	
55	協働する多職種の機能と役割③	保健・医療・福祉職の役割と機能①	
56	協働する多職種の機能と役割③	保健・医療・福祉職の役割と機能②	
57	協働する多職種の機能と役割④	多職種連携・協働の実際	
58	ケアマネジメントの概要	ケアマネジメントの概念と介護過程との違い	
59	ケアマネジメントの流れ	一連の流れについて理解する	
60	まとめ	まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	介護の基本Ⅰ（介護系）			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」（中央法規出版）						
科目概要	<p>1.介護における安全の確保とリスクマネジメント、及び事故予防や安全への対策、感染対策の講義と演習を行う。</p> <p>2.介護事故における危険予知（ヒヤリハット）について事例を用い、安全対策の視点と感染対策における予防を考える。また、介護職の心身の健康管理について、介護職のセルフケアやその予防的取り組みについてグループワークで討議を行う。</p>						
到達目標	<p>1.介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できる。</p> <p>2.介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働管理や労働環境の管理について理解できる。</p>						
評価方法	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施、授業の取り組み姿勢を、それぞれ10%・80%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。						
課題に対するフィードバック	<p>答案を返却し、理解が不十分な部分については、各自復習をしておくこと。</p>						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>各授業において、テキストの演習問題や国家試験に出題される内容を確認テストにより実施するため、事前学習をしておくこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント①	介護福祉士の責務と安全の確保 リスクマネジメントとは何か	
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント②	過誤・事故・苦情とは、苦情解決制度 身体拘束について	
3	リスクマネジメントと組織体制	〈演習〉ヒヤリ・ハット報告書 事故報告書	
4	事故防止のための対策	事故直後の対応、生活の場の安全管理 非常災害時の対策	
5	感染症対策①	介護福祉職に必要な感染に関する知識 標準予防策とは	
6	感染症対策② 〈演習〉	手洗い、手袋・マスク・ガウンのつけ方 はずし方	
7	感染症対策③	感染症発生時の対応	
8	感染症対策④	個別の感染症対策	
9	安全な医療行為を支える視点	医療行為と服薬管理に関する視点と連携	
10	介護従事者の安全①	健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る法制度	
11	介護従事者の安全②	こころの健康管理 〈演習〉ストレス・セルフチェック	
12	介護従事者の安全③	身体の健康管理 〈演習〉腰痛予防体操	
13	介護従事者の安全④	労働環境の整備	
14	〈演習〉 労働環境の整備	危険予知トレーニング	
15	まとめ	まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義	
学科名	介護福祉学科				配当時間	30	対象年次	2年
科目名	介護の基本Ⅱ（リハビリ）				担当者	宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」（中央法規出版） 講義ごとにプリントを配布							
科目概要	<p>1.高齢者や障害児・者に対する介護を提供する上で、リハビリテーションの観点から、他職種との連携、機能と役割、特有の疾患に対する理解を深める。</p> <p>2.介護従事者の安全の確保、リスクマネジメントを学習する。</p>							
到達目標	<p>1. リハビリテーションの概念や知識・技術、ICFの考え方を理解できる。</p> <p>2. コミュニケーション、基本的な身体の仕組みとはたらきを理解できる。</p> <p>3. 体位変換、車椅子介助、歩行介助など移動・移乗の介護技術を理解できる。</p> <p>4. 老化に伴う身体機能の変化、高齢者特有の疾患を理解できる。</p> <p>5. リスク管理や感染対策、標準予防策について理解できる。</p>							
評価方法	<p>前期末に筆記試験を行う。60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。</p>							
課題に対するフィードバック	<p>試験の採点后、答案は返却しない。また、担任を通して成績を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。</p>							
履修要件（準備学習の具体的な内容）	<p>基本的な介護知識・技術、老化や高齢者に多い疾患等を再復習しておくことを望む。</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	リハビリテーション概論 コミュニケーション	リハビリテーションの定義 コミュニケーション技法	
2	リスク管理	リスクマネジメント ヒヤリハット報告	
3	人体の構造 ①	関節の基本構造 肩甲帯の基礎知識	
4	人体の構造 ②	上肢の基礎知識	
5	人体の構造 ③	下肢の基礎知識	
6	人体の構造 ④	体幹の基礎知識	
7	自立に向けた移動の介助	歩行のための福祉用具（種類・使用法） 介助法（歩行・階段昇降）	
8	自立に向けた介護	ICFの基本知識とICIDHの違い、自立を支援するための介護予防、リハビリテーションの意義	
9	ADLとIADL	ADLとIADLの基本知識・違い 評価法	
10	体位変換	ボディメカニクス	
11	老化に伴うからだの変化	高齢者の疾患の特徴	
12	認知症	症状の特徴 検査・治療の実際	
13	障害の基礎的知識 ①	身体障害	
14	障害の基礎的知識 ②	難病	
15	まとめ	まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習	
学科名	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次	1年
科目名	コミュニケーション技術			担当者	井上 千帆(18) 須藤平八郎(6) 久保・茂木 (6)			
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」 (中央法規出版)、「聴さんと学ぼう！」(一般財団法人聴覚障害者連盟)							
科目概要	<p>1.対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うための知識の習得や演習において実践に活かす。</p> <p>2.手話や点字に触れることで様々なコミュニケーション能力を身につけ、視野を広げる。</p>							
到達目標	<p>1.本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。</p> <p>2.さまざまなコミュニケーションの技法を理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を習得できる。</p> <p>3.家族の状況に合わせた支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。</p> <p>4.介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、情報の共有化のための具体的な方法や管理について理解できる。</p> <p>5.視覚・聴覚障害者の特徴を学び、援助方法を学ぶ。</p> <p>6.手話を学び、会話技法を習得する。</p>							
評価方法	<p>期末に筆記試験を行う。また、授業への取り組み姿勢を点数化し、筆記試験の得点に加点する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。</p>							
課題に対するフィードバック	<p>授業前に、前回の復習テストを実施し、授業内容の習熟度を確認する。自己採点しテキストの該当箇所を確認を行う。テストは返却し、再度自己学習の課題とする。</p>							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<p>他者とのコミュニケーションを目的とし、開かれた姿勢で授業に取り組むことを望む。</p>							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	コミュニケーションとは	ガイダンス、アイスブレイクの手法 コミュニケーションの基本	
2	介護におけるコミュニケーションの基本①	介護におけるコミュニケーションとは マズローの欲求段階説とコミュニケーション	
3	介護におけるコミュニケーションの基本②	介護におけるコミュニケーションの対象 援助関係とコミュニケーション	
4	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	コミュニケーション態度に関する基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーション	
5	介護を必要とする人とのコミュニケーション②	目的別のコミュニケーション モチベーション理論、リフレーミング	
6	介護を必要とする人とのコミュニケーション③	集団におけるコミュニケーション技術	
7	障害の特性に応じたコミュニケーション①	コミュニケーション障害への対応の基本 視覚障害・聴覚障害がある人への支援	
8	障害の特性に応じたコミュニケーション②	構音障害・失語症がある人への支援 認知症がある人への支援	
9	手話演習①	ガイダンス「聴覚障害者と手話について」 〈演習〉手話の基本、あいさつ、自己紹介	
10	手話演習②	〈演習〉家族、趣味、誕生日、年齢、仕事	
11	手話演習③	〈演習〉DVD視聴「私の大切な家族」	
12	手話演習④	〈演習〉住所、天気、乗り物、買い物	
13	手話演習⑤	〈演習〉お金、災害、自己紹介まとめ	
14	手話演習⑥	〈交流会〉手話を使って話してみよう 〈演習〉まとめ	
15	まとめ	前期まとめ、振り返り	

回	単元	内容	備考
16	障害の特性に応じたコミュニケーション③	精神疾患の方への支援 知的障害のある人への支援	
17	障害の特性に応じたコミュニケーション④	発達障害のある人への支援 高次脳機能障害のある人への支援	
18	障害の特性に応じたコミュニケーション⑤	重度心身障害のある人への支援 〈演習〉非言語コミュニケーションの応用	
19	介護における家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり、家族への助言・指導・調整、家族関係と介護ストレスへの対応	
20	介護におけるチームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは 報告・連絡・相談の技術	
21	介護におけるチームのコミュニケーション②	記録の技術 〈演習〉介護記録の書き方	
22	介護におけるチームのコミュニケーション③	会議・議事進行・説明の技術	
23	介護におけるチームのコミュニケーション④	事例検討に関する技術	
24	視覚障害者福祉について	視覚障害者への理解（概念） 点字（50音、数字、仮名遣い、表記）	
25	視覚障害者福祉について	視覚障害者への理解（社会参加と社会生活） 点字（分かち書き、質問を点字で書く）	
26	視覚障害者福祉について	視覚障害者と介護者との共生社会について	
27	視覚障害者の生活の理解（移動）	行動の不自由さの理解	
28	視覚障害者とのコミュニケーション	言葉によるコミュニケーションの仕方	
29	日常生活の理解	日常生活における不自由さの説明 白杖について、点字復習	
30	総まとめ	総まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	12	開講時期	通年	形態	講義・演習	
学科名	介護福祉学科				配当時間	180	対象年次	1年
科目名	生活支援技術Ⅰ（介護系）				担当者			
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」（中央法規出版）							
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術の習得を行う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ICFの視点を生活支援に活かすことの意識を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援にどうつなげるかを理解する。 2. 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 3. 健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援ができる。 4. 人生の最終段階における人とチームケアの実践について習得する。 5. 介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに対象者の魅力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。 							
評価方法	毎回のレポート提出、単元毎の実技試験、期末に筆記試験を実施、授業の取り組み姿勢を、それぞれ10%・40%・50%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。							
課題に対するフィードバック	レポートの採点后、返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。							
履修要件（準備学習の具体的な内容）	介護技術の再確認、及び国家試験に出題される内容を事前学習しておく。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 基本となる介護技術とは	生活支援の基本的な考え方、生活支援技術の意味、演習について	
2	I-第3章 移動の介護 移動・移乗の介護技術	・ボディメカニクスについて ・体位交換とは・安楽な体位とは	
3	II-第5章 休息・睡眠の介護 第1節 休息・睡眠とは	・睡眠が生活に及ぼす影響について ・環境と睡眠との関係・安眠できる環境条件について	
4	II-第5章 第2節 休息・睡眠の介護技術	・ボディメカニクスを活用して ・ベッドメイキングについて	
5	(演習)	・環境整備の基本知識 ・ベッドメイキングの仕方①シーツの畳み方	
6	(演習)	・ベッドメイキングの仕方 ②シーツコーナーの作り方	
7	(演習)	・ベッドメイキングの仕方 ③包布・枕カバーの付け方	
8	(演習)	・ベッドメイキングの仕方 ④防水シーツ・横シーツのさばき方	
9	(演習)	・ベッドメイキング：ミニテスト (1) シーツ交換（基礎）	
10	(演習)	・ベッドメイキング：ミニテスト (2) シーツ交換（応用）	
11	中間考査	実技中間試験	
12	I-第1章 生活支援の理解	・生活支援の基本的な考え方 ・生活支援と介護過程・チームアプローチ	
13	I-第3章 移動の介護 自立に向けた移動の介護	・自立した移動とは ・自立した移動の一連の流れ	
14	I-第2節 移動・移乗における介護技術	・移動・移乗におけるアセスメント ・麻痺の種類 ・良肢位について	
15	歩行介助について	・歩行介助についての講義	

回	単元	内容	備考
16	(演習)	・杖歩行の介助	
17	(演習)	・杖歩行による階段の上り下りの介助 ・視覚障害者の階段昇降	
18	(演習)	・視覚障害者の狭道介助・椅子への誘導	
19	車いす移動介助について	・車いす移動介助についての講義	
20	(演習)	・車いすでの段差・溝の越え方	
21	(演習)	・車いすでの坂道の移動方法	
22	体位変換の介助	・体位の種類と安楽な体位の基本知識 ・上方移動（片麻痺・全介助）	
23	(演習)	・水平移動（片麻痺・全介助）	
24	(演習)	・仰臥位～側臥位（対面法）	
25	(演習)	・仰臥位～側臥位（背面法）	
26	(演習)	・仰臥位～側臥位（全介助の場合）	
27	(演習)	・寝かせたままのシーツ交換	
28	起居・立ち上がり	・端座位～立位（片麻痺） ・端座位～立位（全介助）	
29	(演習)	・仰臥位～端座位（片麻痺）	
30	(演習)	・仰臥位～長座位・端座位（全介助）	

回	単元	内容	備考
31	移乗の介助	・ベッド～車いすへ移動（片麻痺）	
32	（演習）	・ベッド～車いすへ移動（全介助）	
33	（演習）	・車いす～ベッドへ移動（片麻痺）	
34	実技中間考査	考査内容：側臥位～端座位～車いすへの移乗	
35	（演習）	・ベッド～ポータブルトイレへの移動 ・ベッド～ストレッチャーへの移動	
36	II-第2章 身じたくの介護 第1節 自立した身じたくとは	・衣類の着替えの意義と目的 ・衣類の着脱についての介護技術	
37	第2節 自立に向けた身じたくの介護	・かぶりの洋服の交換（かぶり・座位）	
38	（演習）	・寝衣の交換（前開き・座位）	
39	（演習）	・寝衣の交換（前開き・仰臥位）	
40	（演習）	・寝衣の交換（ゆかた・仰臥位） ・更衣の実技考査	
41	II-第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	・入浴・清潔保持の意義と目的	
42	（演習）	・入浴（特殊浴槽、一般浴槽）	
43	（演習）	・清潔演習（足浴・手浴の技法）	
44	テスト定期試験	・実技定期試験	
45	まとめ	・総まとめと振り返り	

回	単元	内容	備考
46	前期復習、応用	ベッドメイキング（包布活用）・移動介護等	
47	前期復習、応用	体位交換・衣類の着脱等	
48	II-第2章 食事の介護	第1節 食事の意義と目的	
49	第2章 第2節 自立に向けた食事の介助	介護の基本原則にのっとった食事の介助、水分補給	
50	(演習)	食事の介助（長座位の場合）	
51	(演習)	食事の介助（片麻痺がある場合） 食事の介助（視覚障害者の場合）	
52	(演習)	誤嚥の予防のための支援、嚥下体操	
53	食後の口腔ケア	口腔ケアの意義と目的	
54	(演習)	口腔の清潔（口腔の清拭）、実技考査	
55	(演習)	口腔の清潔（歯みがき）*DHから見た口腔ケア	
56	(演習)	口腔の清潔（歯みがき）*DHから見た口腔ケア	
57	II-第4章 排せつの介護 第1節 自立した排泄とは	自立した排泄とは	
58	第2節 自立に向けた排泄の介助	排泄の介助	
59	(演習)	おむつの交換（紙おむつの場合）	
60	(演習)	おむつの交換（紙おむつの場合）	

回	単元	内容	備考
61	(演習)	おむつの交換 (布おむつの場合)	
62	(演習)	陰部洗浄	
63	(演習)	トイレ誘導時の介助、ポータブルトイレの介助	
64	(演習)	尿器・差し込み便器を使った介助	
65	(演習)	排せつに関するさまざまな介助	
66	中間考査	実技考査 食事に関する支援と排せつ介助	
67	健康状態の把握	バイタルサイン	
68	(演習)	体温、血圧 ・脈拍、呼吸	
69	(演習)	冷罨法 (温罨法)	
70	II-第6章 人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義と介護の役割	
71	(演習)	人生の最終段階における介護	
72	I-第4章 福祉用具の意義と活用	第1節 生活支援における福祉用具の重要性	
73	(講義)	第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	
74	I-第6章 応急手当の知識と技術	応急手当について、応急手当の実際	
75	I-第7章 災害時における生活支援	第1節 被災地で活動する際の心構え	

回	単元	内容	備考
76	(演習)	被災地における活動場所 ハザードマップ、災害グッズ	
77	移乗の応用編①	持ち上げない介護とは	
78	移乗の応用編②	楽々介助法の実践	
79	移乗の応用編③	デンマーク、スウェーデンに学ぶ介護	
80	事例に基づく実践①	片麻痺の方に対する車いすを用いたベッドから食堂までの移動支援	
81	事例に基づく実践②	片麻痺と失語症の方に対しての外出への誘導の支援	
82	事例に基づく実践③	認知症の方に対する入浴に関する誘導の支援	
83	事例に基づく実践④	事例問題-1	
84	事例に基づく実践⑤	事例問題-2	
85	事例に基づく実践⑥	事例問題-3	
86	介護支援技術Ⅰにおける知識の振り返り①	介護技術に関する知識のまとめ	
87	介護支援技術Ⅰにおける知識の振り返り②	介護技術に関する知識のまとめ	
88	試験対策	実技まとめ	
89	総合評価	実技期末考査	
90	まとめ	総まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	実技
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	生活支援技術Ⅱ（リハビリ）			担当者	宮澤 満		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 他、資料等プリント配布						
科目概要	<p>1. 尊厳の保持や自立支援、生活の豊さの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術の習得を行う。</p> <p>2. 高齢者や障害児・者の介護を必要としている方に対し、座学で学んだ知識をリハビリテーションの観点活かした技術の実践により理解を深め、介護技術に応用できるよう学習する。</p>						
到達目標	<p>1. ICFの視点を生活支援に活かすことの意識を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援にどうつなげるかを理解する。</p> <p>2. 対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。</p> <p>3. 介護におけるリハビリテーションの意義が理解できる。</p> <p>4. 介護時におけるリスク管理が理解できる。</p> <p>5. 各体位における正しいポジショニングができる。</p> <p>6. 安全で快適な体位変換、移動、移乗、移送、歩行・階段昇降介助ができる。</p> <p>7. 身体を理解し適切な検査・測定や訓練を安全に行うことができる。</p>						
評価方法	前期末に実技試験を行う。実技試験の内容を点数化し、60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	実技試験の採点后、各学生に対し試験内容に対する総評を行う。また、担任を通して成績を公表する。不合格者については学籍番号のみを掲示する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	基本的な解剖学・生理学的知識、介護知識・技術等を再復習しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護職の役割	リハビリテーション介護	
2	動作における介助量	起居動作・起立 など	
3	血圧測定実習	血圧測定の基礎知識 血圧測定の実践	
4	PROM運動 ①	上肢の基礎知識・実践	
5	PROM運動 ②	下肢の基礎知識・実践	
6	体位変換	ボディメカニクスを応用した体位変換の 実践	
7	ポジショニング	良肢位とは 体位の種類	
8	移乗動作	車椅子・ベッド間の移乗	
9	車椅子移送	坂・段差昇降	
10	自立に向けた移動の介護	杖の調整 歩行介助・階段昇降介助	
11	筋力増強訓練	チューブトレーニング	
12	体力測定	測定機器を用いての体験	
13	介護予防 ①	介護予防のテスト	
14	介護予防 ②	介護予防訓練の実際 プログラミング	
15	BLS	BLSの流れ、BLS体験 まとめ	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義・演習	
学科名	介護福祉学科				配当時間	60	対象年次	1年
科目名	生活支援技術Ⅲ (栄養・調理・被服)			担当者	小川 富美子 一ノ瀬 佐知子			
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版) 新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版)							
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> 1.生命維持に必要な「食」から、生活の楽しみ「食」への理解を深める。介護福祉士として「食」の支援をするうえで、必要な基礎知識を取り扱う。 2.食文化や食生活の変化をはじめ、介護福祉士が「食」の支援をするうえで必要な基本的技術を学ぶ。 3.家事の重要性とともに、好みを尊重した支援を行うための視点や基本的技術を学ぶ。また、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者主体の生活ができるよう知識や技術の習得を行う。 							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.食事(食品)に含まれる栄養素の知識や役割を習得し、施設、及び在宅に関わらず介護を必要とする人の食生活を支えることができる基本的知識を身に付ける。 2.「栄養」「調理」の知識、病態と食事の関係、要介護者の食生活の知識や技術を活用する。そのうえで、「調理」の実際や「嚥下」の体験を通じて、健常者との相違点、食べることの大切さを実践的に学ぶ。また、高齢者や障害者への実際の介助方法や調理法などを、具体的に提案し援助ができる。 3.生活の継続性を支援する観点から、利用者の心身の状況に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基本的な知識・技術を習得できる。 4.介護福祉職における家事支援の実際を実践できる。 							
評価方法	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施する。授業の取り組み姿勢、グループワークの評価を点数化して、筆記試験結果に加減する。演習への取り組み姿勢、班別・個人別の献立作成や調理ノートの添削、調理技術、被服に関する課題作品を点数化する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する(学則に準じて評価)。							
課題に対するフィードバック	提出物の添削後、留意点や重要部分について解説し知識を深める。							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1.小・中・高校で学習した栄養について、再復習しておく。家庭での食事や調理に興味を持ち、「食」についての関心を深める。 2.家庭における調理や買い物を実際を体験しておく。 3.「家事支援」とはなにか理解を深めておく、介護福祉職としての施設における「家事支援」について考察しておくことを望む。 							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 食生活の変化	介護福祉職が栄養と調理を学ぶ意義 食文化と食生活変化	
2	栄養素総論	食品の分類、6つの基礎食品群	
3	栄養素各論	各栄養素の構成・作用・分離・代謝 含有食品①	
4	栄養素各論	各栄養素の構成・作用・分離・代謝 含有食品②	
5	食品の調理性と調理の基本 衛生管理	各食品の調理性、加熱・非加熱調理法 食中毒の分類、原因・予防・保存	
6	献立作成方法と食品購入、選 択	献立の立て方と食品の選び方 食事バランスガイドを活用した献立作り①	
7	献立作成方法と食品購入、選 択	食事バランスガイドを活用した献立作り②	
8	高齢者と障害者の栄養	食品、及び調理の配慮、低栄養の評価 嚥下障害とは、嚥下障害者への食事の配慮	
9	特殊栄養(疾病と食事)、 調理の支援	高齢者に多い疾病の食事、訪問及び施設の 調理法	
10	「栄養」に関する まとめ	まとめ、振り返り	
11	調理に関するガイダンス 飲み込みやすい調理形態	調理室の利用と衛生管理 嚥下調理学会分類2013について (食事形態・とろみ)	
12	飲み込みやすい調理形態 (演習)	段階毎の献立作成 (各自・各班：10分程度)	
13	嚥下調整食 各段階的献立作成	常食から嚥下困難食への展開食、献立作成	
14	基本的な調理①	調理を行う際の諸注意、包丁の使い方	
15	基本的な調理②	カレー作成	

回	単元	内容	備考
16	嚥下困難者の水分 寒天とゼラチンの相違	とろみの付け方、寒天とゼラチンを作成、 テクスチャーの相違点	
17	摂食・嚥下調整食	献立作成 (野菜食・刻み食・ミキサー食・ソフト食)	
18	お粥のいろいろ 摂食・嚥下調整食	全粥～3分粥までを作成 各段階の嚥下調整食を調理、相違確認	
19	高齢者・障害者の食事	片麻痺者における自助具を活用した摂食体験	
20	摂食・嚥下調整食③ 「調理」まとめ	②の献立から選択し、班別に3段階の食事を調理し 作成、皮むき確認テスト	
21	自立に向けた家事の支援	自立生活を支える家事、介護保険との関連 専門職としての自立に向けた家事の介護	
22	洗濯の意義	洗濯の仕方と進め方、洗濯マーク	
23	被服生活の基礎知識①	被服の機能、被服を取りまく変化、 被服の管理	
24	被服生活の基礎知識②	被服の洗濯、洗剤の種類	
25	被服生活の基礎知識③	漂白実習（蛍光増白剤と違い） シミの取り方実習	
26	被服生活の基礎知識④	洗濯実践、アイロン掛け実習	
27	被服生活の基礎知識⑤ (演習)	衣類の補修のプロセス	
28	被服生活の基礎知識⑥ (演習)	裁縫-衣類の補修	
29	衛生管理と整理整頓	自立支援に基づいた掃除の支援 衣類の管理方法、防虫剤、カビの予防方法	
30	「被服」に関する まとめ	家事に関するICFの構成要素と観察ポイント、 まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	生活支援技術Ⅳ（住居）			担当者	一ノ瀬 佐知子 井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」（中央法規出版） 福祉住環境コーディネーター3級（公式テキスト）、資料プリント						
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術の習得を行う。 2. 生活の理解と生活支援の目的、居住環境の整備について理解し、高齢者や障害児・者の安全で安心な環境作りの知識を身に付ける。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住まいの多様性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基本的知識を理解できる。 2. 高齢者や障害児・者に対して、住みやすい住環境を提案できるように福祉住環境コーディネーター3級に準じた知識の習得と、目指せる資格として検定の受験も視野に入れる。 3. 住環境整備にかかわる職種とその役割について学ぶ。 						
評価方法	課題レポートの提出、授業に対する取組み姿勢、出席率、及び客観(筆記)試験を実施し、総合的に判断する。判断基準は、20%、10%、10%、60%、総合的に60点以上を合格とし、単位を認定する(学則に準じて評価)。						
課題に対するフィードバック	<p>答案を返却し、不十分なところは、見直しておくこと。検定については、介護福祉士として活かせる資格となるため、挑戦して欲しい。</p>						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	<p>住環境については、自宅はもちろん実習先やインターシップ先において、間取りやデザイン、高齢者や障害児・者にとって住みやすい住環境なのか考えておくことが重要であるため、いろいろなパターンを見学しておくこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス テキストⅠ-第2章 住まいの役割と機能	福祉住環境コーディネーター検定について 日本の住宅における特徴、家族と生活空間、 人と空間、人体寸法と動作空間、起居様式	
2	福祉住テキスト 第4章 住まいの整備のための基本技術①	建築基準法とは、住宅品確法について 段差に関する整備の技術	
3	福祉住テキスト 第4章 住まいの整備のための基本技術②	床材、手すりに関する整備の技術	
4	福祉住テキスト 第4章 住まいの整備のための基本技術③	幅、スペースに関する整備の技術	
5	福祉住テキスト 第4章 住まいの整備のための基本技術④	家具・収納、色彩・照明、インテリア、冷暖房、 非常時の対応、維持管理に関する整備の技術	
6	Ⅰ-第2章 福祉住 第4章 自立に向けた居住環境の整備	生活行為別にみる住まい① 寝室、トイレ、浴室	
7	Ⅰ-第2章 福祉住 第4章 自立に向けた居住環境の整備	生活行為別にみる住まい② 洗面脱衣室、台所、居間・食事室	
8	テキストⅠ-第2章 快適な室内環境	生活環境と室内環境、明るさ、照明、音、 住まいの維持・管理	
9	Ⅰ-第2章 福祉住 第4章 自立に向けた居住環境の整備	生活行為別にみる住まい③ 廊下、階段、移動に関する有効幅員	
10	テキストⅠ-第2章 快適な室内環境	安全に暮らすための生活環境、介護保険における住宅改修制度、災害に対する備え	
11	テキストⅠ-第2章 福祉住テキスト 第5章 高齢者・障害者の住まい	安心できる住生活とまちづくり 住まいの多様化やバリアフリー化、住宅施策	
12	福祉住テキスト 第5章 生活を支える用具	ユニバーサルデザイン	
13	福祉住テキスト 第5章 福祉用具の意義と活用	生活を支える福祉用具 公的制度上での福祉用具	
14	テキストⅠ-第2章 住環境整備における多職種との連携	多職種連携の必要性、住環境整備に関する 専門職種、事例問題	
15	まとめ	まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	通年	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	60	対象年次	1年
科目名	介護過程			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」(中央法規出版)						
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を養う。						
到達目標	1.介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点が持てる。 2.介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を習得する。 3.個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげられる。						
評価方法	介護過程における各シートの成果、各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施、授業の取組み姿勢を、それぞれ50%・10%・40%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。						
課題に対するフィードバック	介護過程における各シート・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	事例による介護過程の展開シートの復習、国家試験過去問題の実施するため、再復習を望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護過程とは	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u>	
2	介護過程とは	介護過程の意義と目的	
3	介護過程とは	介護過程の全体像	
4	介護過程とは	介護過程とICF（国際生活機能分類）	
5	生活における介護過程の必要性①	生活における介護過程の意義	
6	生活における介護過程の必要性②	介護過程と事例検討	
7	介護過程の理解①	アセスメントの思考の方法	
8	介護過程の展開②	アセスメントの視点	
9	介護過程の展開①	アセスメント、介護計画の立案、実施、評価	
10	アセスメント①	情報収集の意義	
11	アセスメント②	アセスメントと情報収集	
12	アセスメント③	情報収集の方法	
13	アセスメント④	演習問題、情報収集の分析	
14	アセスメント⑤	情報収集から課題を導く	
15	前期まとめ	評価、まとめ	

回	単元	内容	備考
16	介護過程の実践的展開①	導入 実習指導との関連	
17	介護過程の実践的展開②	介護実習に向けての動機付け <u>介護過程の展開の理解</u>	
18	アセスメントについて①	アセスメントの視点	
19	アセスメントについて②	アセスメントの実際	
20	アセスメントについて③	アセスメントの確認、情報の解釈	
21	アセスメントについて④	情報の量と質の大切さを考える	
22	介護計画の立案①	介護計画とは、介護目標の設定	
23	介護計画の立案②	具体的な支援内容、支援方法の決定	
24	介護計画の立案③	介護計画の立案における留意点	
25	介護の実施①	介護の実施とは	
26	介護の実施②	介護における留意点	
27	介護の実施③	実施の記録	
28	評価①	評価の意義と目的	
29	評価②	評価の内容と方法、介護過程における評価の確認	
30	介護過程のまとめ	評価、振り返り	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	2年
科目名	介護過程			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 新・介護福祉士養成講座9「介護過程」(中央法規出版) プリント(随時配布)						
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 ・ 介護過程の意義と基礎的理解を学び実践的展開ができる。 ・ 介護過程におけるチームアプローチを学ぶ。 ・ ケースカンファレンスやサービス提供責任者会議の運営方法を学ぶ。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集能力や分析力を身につける。 2. 介護過程の実践的展開が、計画用紙に展開し理解できる。 3. 介護過程におけるチームアプローチを理解できる。 4. カンファレンスやサービス提供責任者などの会議内容を理解する。 5. 受け持ちケースを検討し事例研究発表ができる。 						
評価方法	客観(筆記) 試験80%、提出物20%で評価し、60点以上のものに単位を認定する。(学則に準じて評価する)						
課題に対するフィードバック	アセスメント用紙、介護計画用紙については、事例やDVDをもとに、情報収集を行い、介護計画を考案していくため随時提出してもらい、チェックをして返却する。また、不十分な場合は個別指導などでフォローしていく。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	介護実習に直結していく科目であるため、授業は欠席をしないようにしてほしい。また、介護実習Ⅱで実施した2ケースのアセスメントシートを活用し介護計画の授業に活かしていくため実習先でのケアプランについても事前に確認をしておくこと。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護過程の実践的展開①	導入 実習指導との関連	
2	介護過程の実践的展開②	介護実習に向けての動機付け	
3	アセスメントツールについて①	各種アセスメントツールの説明①	
4	アセスメントツールについて②	各種アセスメントツールの説明②	
5	アセスメントツールについて③	各種アセスメントツールの説明③	
6	アセスメントツールの活用 法①	アセスメントツールを使って課題分析を行 い、違いを習得する①	
7	アセスメントツールの活用 法②	アセスメントツールを使って課題分析を行 い、違いを習得する②	
8	アセスメントツールの活用 法③	アセスメントツールを使って課題分析を行 い、違いを習得する③	
9	「食」に着目した介護過程 の展開①	「食」領域に特化した課題分析を行う①	
10	「食」に着目した介護過程 の展開②	「食」領域に特化した課題分析を行う②	
11	「排泄」に着目した介護過 程の展開①	「排泄」に特化した課題分析を行う①	
12	「排泄」に着目した介護過 程の展開②	「排泄」に特化した課題分析を行う②	
13	「排泄」に着目した介護過 程の展開③	「排泄」に特化した課題分析を行う③	
14	「入浴」に着目した介護過 程の展開①	「入浴」に特化した課題分析を行う①	
15	「入浴」に着目した介護過 程の展開②	「移動」に着目した介護過程の展開①	

回	単元	内容	備考
16	「移動」に着目した介護過程の展開①	「移動」に特化した課題分析を行う①	
17	「移動」に着目した介護過程の展開②	「移動」に特化した課題分析を行う②	
18	「整容」に着目した介護過程の展開①	「移動」に特化した課題分析を行う③	
19	「整容」に着目した介護過程の展開②	「移動」に特化した課題分析を行う④	
20	「コミュニケーション」に着目した介護過程の展開①	「コミュニケーション」に特化した課題分析を行う①	
21	「コミュニケーション」に着目した介護過程の展開②	「コミュニケーション」に特化した課題分析を行う②	
22	「コミュニケーション」に着目した介護過程の展開③	「コミュニケーション」に特化した課題分析を行う③	
23	施設から在宅復帰を目指した介護過程の展開①	在宅復帰するために必要な課題分析を行う①	
24	施設から在宅復帰を目指した介護過程の展開②	在宅復帰するために必要な課題分析を行う②	
25	障害者に対するアセスメント①	障害者の特性を活かした課題分析を行う①	
26	障害者に対するアセスメント②	障害者の特性を活かした課題分析を行う②	
27	介護サービス計画書について①	介護計画用紙に記録する①	
28	介護サービス計画書について②	介護計画用紙に記録する②	
29	介護サービス計画書について③	介護計画用紙に記録する③	
30	まとめ	前期評価	

回	単元	内容	備考
31	ケースカンファレンスの展開①	施設内におけるケースカンファレンスの演習を行う①	
32	ケースカンファレンスの展開②	施設内におけるケースカンファレンスの演習を行う②	
33	サービス担当者会議の演習①	各サービス事業者・本人・家族等に分かれてサービス担当者会議の演習を行う①	
34	サービス担当者会議の演習②	各サービス事業者・本人・家族等に分かれてサービス担当者会議の演習を行う②	
35	介護サービス計画書について①	各サービス事業者に分かれて介護サービス計画書の立案の演習を行う①	
36	介護サービス計画書について②	各サービス事業者に分かれて介護サービス計画書の立案の演習を行う②	
37	事例研究①	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
38	事例研究②	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
39	事例研究③	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
40	事例研究③	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
41	事例研究④	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
42	事例研究⑤	受け持ちケースを検討し、まとめる。	
43	事例研究発表①	受け持ちケースの事例発表①	
44	事例研究発表②	受け持ちケースの事例発表②	
45	まとめ	総合評価	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	1年
科目名	介護総合演習			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 (中央法規出版)						
科目概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。また、介護実践の科学的探求を目指す。						
到達目標	1.実習の学習効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。2.実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び付けて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を習得できる。3.質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を活用できる。						
評価方法	各単元の小テスト、期末に筆記試験を実施、授業の取組み姿勢を、それぞれ10%・80%・10%の配分とし、総合的に勘案し60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施（学則に準じて評価）。						
課題に対するフィードバック	小テスト・試験の採点后、答案を返却する。理解が不十分な点については、各自復習や課題の履修において理解を深める。不合格者については、個別対応とする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	授業毎において、小テストや国家試験過去問題の実施するため、事前学習を望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習とは何か	介護実習の意義・目的について説明し、動機付けを行う	
2	実習施設・事業所の概要①	介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護療養型医療施設の概要	
3	実習施設・事業所の概要②	介護保険制度の居宅サービスの概要	
4	実習施設・事業所の概要③	地域密着型介護サービスの概要	
5	実習施設・事業所の概要④	障害者（児）介護サービスの概要	
6	介護福祉士の職業倫理	日本介護福祉士会の倫理綱領を中心に職業倫理を説明する	
7	コミュニケーションマナー	介護におけるコミュニケーションマナーを学ぶ①	
8	コミュニケーションマナー	介護におけるコミュニケーションマナーを学ぶ②	
9	コミュニケーションマナー	介護におけるコミュニケーションマナーを学ぶ③	
10	介護実習における記録の種類・意義について	介護における記録類を説明し、その意義や書き方の留意点を学ぶ	
11	実習日誌の書き方	実習日誌の書き方の留意点を学ぶ	
12	実習日誌の書き方	事例に基づいて実習日誌を書く①	
13	実習日誌の書き方	事例に基づいて実習日誌を書く②	
14	実習日誌の書き方	事例に基づいて実習日誌を書く③	
15	実習日誌の書き方	事例に基づいて実習日誌を書く④	

回	単元	内容	備考
16	施設概要の書き方	施設概要の書き方を学習する	
17	実習目標の書き方	実習目的の書き方を学習する	
18	プロセスレコードの書き方	プロセスレコードの書き方を学習する	
19	介護技術の確認①	シーツ交換の技法の確認	
20	介護技術の確認②	体位交換の技法の確認	
21	介護技術の確認③	移乗・移動の技法の確認	
22	介護技術の確認④	排泄介助の技法の確認	
23	介護技術の確認⑤	食事介助の技法の確認	
24	介護技術の確認⑥	入浴介助の技法の確認	
25	介護技術の確認⑦	清潔保持の技法の確認	
26	実習先についての理解を深める①	実習先についてサービス内容等の理解を深める（演習）①	
27	実習先についての理解を深める②	実習先についてサービス内容等の理解を深める（演習）②	
28	実習前オリエンテーション①	施設見学のアポイントメントを取る	
29	実習前オリエンテーション②	実習目標を完成する	
30	実習前オリエンテーション③	個人票等の諸書類を完成する	

回	単元	内容	備考
31	介護過程の復習 (アセスメント) ①	事例に基づき課題分析を行う	
32	介護過程の復習 (アセスメント) ②	事例に基づき課題分析を行う	
33	介護過程の復習 (アセスメント) ③	事例に基づき課題分析を行う	
34	介護過程の復習 (アセスメント) ④	事例に基づき課題分析を行う	
35	介護過程の復習 (アセスメント) ⑤	事例に基づき課題分析を行う	
36	介護過程の復習 (アセスメント) ⑥	事例に基づき課題分析を行う	
37	介護技術の復習①	移動・移乗介護	
38	介護技術の復習②	食事介護	
39	介護技術の復習③	排泄介護	
40	介護技術の復習④	入浴・清拭・整容介護	
41	介護技術の復習⑤	コミュニケーション介護	
42	介護過程の復習 (個別計画書) ①	事例の基づき介護計画の立案を行う	
43	介護過程の復習 (個別計画書) ②	事例の基づき介護計画の立案を行う	
44	介護過程の復習 (個別計画書) ③	事例の基づき介護計画の立案を行う	
45	介護過程の復習 (個別計画書) ④	事例の基づき介護計画の立案を行う	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	介護総合演習			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 実習要項、プリント(随時配布)						
科目概要	実習課題や目標を明確化させると同時に、必要な事前・事後学習の支援を行うことで、効果的かつ円滑な介護実習が実施できることを目的とする。介護実習においては、基本的な知識・技術はもちろん実習に対する姿勢や取り組みなどにおいて、様々な角度から助言アドバイスをしていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別ケースをとり介護計画を進める能力を高めると共に、最終実習の介護実習への心構えやノウハウを身につける。 2. 介護福祉士としての専門性を学び、チームワークの重要性や実習をふりかえることにより、より良いケアとは何かを理解できる。 3. それぞれの実習の課題様式を理解し記録し考察できる。 						
評価方法	提出物、レポートで評価する。60点以上を合格とし、不合格者については、学則に準じて評価する。						
課題に対するフィードバック	実習の関連様式や振り返りシートなどを提出してもらい、その都度個別指導を実施する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	介護実習Ⅱ・Ⅲに向けて、実習先への事前訪問の連絡や事前オリエンテーションなどの細部にわたっての指導も含まれているため欠席のないよう取り組んでほしい。また、介護実習施設の概要や利用者理解、他の科目との関連もあるため総合的な技術・知識を養ってほしい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	ガイダンス 介護実習について	介護実習を実施するにあたり 介護実習Ⅱ・Ⅲについて	
2	介護実習の目標 実習施設の概要	2段階実習の目標設定、施設の概要について	
3	実習先についての理解を深める1	実習先についてサービス内容等の理解を深める(演習)①	
4	実習先についての理解を深める2	実習先についてサービス内容等の理解を深める(演習)①	
5	実習先についての理解を深める3	実習先についてサービス内容等の理解を深める(演習)①	
6	実習課題について1	アセスメントシートの記入の仕方①	
7	実習課題について2	アセスメントシートの記入の仕方②	
8	実習課題について3	アセスメントシートの記入の仕方②	
9	実習記録について1	介護計画用紙の記入の仕方①	
10	実習記録について2	介護計画用紙の記入の仕方②	
11	実習記録について3	介護計画用紙の記入の仕方③	
12	実習記録について4	介護計画用紙の記入の仕方④	
13	実習登校日(介護実習Ⅱ)	振り返りシート記入、個別指導、実習記録の チェック	
14	実習登校日(介護実習Ⅱ)	振り返りシート記入、個別指導、実習記録の チェック	
15	まとめ	最終カンファレンス発表 実習を振り返って、今後に活かす	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	実習	
学科名	介護福祉学科				配当時間	90	対象年次	1年
科目名	介護実習Ⅰ				担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 (中央法規出版)							
科目概要	<p>1.地域におけるさまざまな場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的知識を養う。</p> <p>2.利用者の特性を理解し、施設での1日の流れを知る。</p> <p>3.利用者とのコミュニケーションとの取り方を学ぶ。</p> <p>4.日常生活の支援方法を学ぶ。</p>							
到達目標	<p>1.対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に活用できる。</p> <p>2.実習施設の概要を知る。</p> <p>3.日常生活援助を通して利用者とのコミュニケーションを取る。</p>							
評価方法	実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし、単位を与える。(詳細については学則及び実習要項に記載)							
課題に対するフィードバック	介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	実習要項に記載							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅰ	実習施設・事業等（Ⅰ）にて90時間の 実習を行う。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	実習
学科名	介護福祉学科			配当時間	180	対象年次	2年
科目名	介護実習Ⅱ			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	実習指導要綱、実習日誌、課題						
科目概要	対象利用者を決め介護計画に必要なアセスメントを実施する。施設業務に参加し介護技術を習得する。施設の機能と介護福祉士の役割を理解する。						
到達目標	1. 高齢者や障害者の障害や心理を理解し、個々の障害の程度に応じた介護技術を身につける。 2. 利用者に対するアセスメントの方法を理解する。						
評価方法	実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし単位を与える。 (詳細については学則及び実習要項に記載)						
課題に対するフィードバック	介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	実習要項に記載						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅱ	実習施設・事業等（Ⅱ）にて180時間の実習を行う。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	後期	形態	実習	
学科名	介護福祉学科			配当時間	180	対象年次	2年	
科目名	介護実習Ⅲ			担当者	井上 千帆			
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	実習要項に記載							
科目概要	<p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個別性を理解する。介護過程のアセスメント、ニーズ、計画立案、実施、評価までを行う。施設の機能と多職種連携及び介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践を学ぶ。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者に対する介護計画の立案・実施・評価を実施する。 2. 施設業務全体の流れと施設内の各職種の役割及び連携の方法を理解する。 3. 施設業務へ参加し介護技術を習得し、職員間の連携を理解する。 							
評価方法	<p>実習評価表と教員による評価を総合的に判断し、60点以上の者を合格とし、単位を与える。</p> <p>(詳細については学則及び実習要項に記載)</p>							
課題に対するフィードバック	<p>介護実習の中間と終了後に振り返りシートを記載し、巡回指導教員が個別指導を実施する。また、概ね週1回の巡回指導において、実習指導者を交えカンファレンスを実施し、実習の取り組みや課題の進捗状況を確認し十分に介護実習に取り組めるようサポートする。</p>							
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	実習要項に記載							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	介護実習Ⅲ	実習施設・事業等（Ⅱ）にて180時間の実習を行う。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

履修区分	必修	単位数	4	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	介護福祉学科			配当時間	67	対象年次	2年
科目名	医療的ケア			担当者	根岸 妙子 馬場先 淳子 宮内 鈴歌		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト 新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」（中央法規）、講義ごとに演習問題を配布、視聴覚教材 DVD「喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点」						
科目概要	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアに関する制度の概要及び「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「感染予防」、「安全管理体制」等について理解する。 2. 喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する。 3. 経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する。 						
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習（評価表）（90%）、演習への取り組み状況等（10%）の割合で総合的に評価する。 2. 出席状況が全体の2/3以上である。遅刻・早退（30分以内）合計数3をもって1の欠課とみなす。 3. 評価規定については、学科に規定に準ずる。 						
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「基本研修（演習）及び実地研修類型区分」の区分毎に、省令別表に定める以上の演習を行う。 2. 演習指導講師は、学生と一緒に振り返りを行い、学生は次の演習の改善につなげる 						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	医療的ケアの講義内容を復習しておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	医療的ケア実施の基礎	医療的ケア ①	
2	医療的ケア実施の基礎	医療的ケア ②	
3	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活 ①	
4	医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活 ②	
5	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防 ①	
6	医療的ケア実施の基礎	清潔保持と感染予防 ②	
7	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握 ①	
8	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握 ②	
9	医療的ケア実施の基礎	健康状態の把握 ③	
10	医療的ケア実施の基礎	まとめ・確認試験	
11	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 ①	
12	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 ②	
13	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 ③	
14	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 ④	
15	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 ⑤	

回	単元	内容	備考
16	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ①	
17	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ②	
18	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ③	
19	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ④	
20	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ⑤	
21	経管栄養の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順 解説 ⑥	
22	経管栄養の基礎的知識	まとめ・確認試験	
23	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 ①	
24	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 ②	
25	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 ③	
26	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 ④	
27	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 ⑤	
28	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ①	
29	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ②	
30	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ③	

回	単元	内容	備考
31	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ④	
32	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ⑤	
33	喀痰吸引の基礎的知識	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順 解説 ⑥	
34	喀痰吸引の基礎的知識	まとめ・確認試験	
35	経管栄養の演習	経鼻経管栄養の実施	
36	経管栄養の演習	胃ろう経管栄養の実施	
37	経管栄養の演習	経鼻・胃ろう経管栄養の実技試験	
38	喀痰吸引の演習	口腔内・鼻腔内吸引の実施 ①	
39	喀痰吸引の演習	口腔内・鼻腔内吸引の実施 ②	
40	喀痰吸引の演習	口腔内・鼻腔内吸引の実技試験	
41	喀痰吸引の演習	気管内吸引の実施 ①	
42	喀痰吸引の演習	気管内吸引の実施 ②	
43	喀痰吸引の演習	気管内吸引の実技試験	
44	救急蘇生法の演習	救急蘇生法の実施	
45	救急蘇生法の演習	救急蘇生法の実施	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	実技	
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年	
科目名	パソコン操作法			担当者	戸谷 幸永			
	<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業						
使用教材	テキスト 「30時間でマスター Word2019」 (実教出版) プリント (随時配布)							
科目概要	介護現場において記録の電子化が進んでおり、パソコンの基本操作や文書入力が必要なスキルとなっている。介護福祉士として円滑な記録業務遂行のためにWindowsの基本的操作や文書作成を行い、実践的な活用方法を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.Windows10の基礎、及びインターネットの活用やアプリ操作方法の習得。 2.漢字・かな・カナ・アルファベットの使分け、複写等機能が使用できる。 3.Wordでの文章入力・保存と読み込みなど、基本操作ができる。 4.画像や地図の挿入、グラフィック機能を活用し、チラシを作成できる。 5.差込み印刷やはがき作成の技術を習得し、ビジネス文書作成に応用できる。 6.コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門3級取得を目標とする。 							
評価方法	期末に文書作成・Word機能を活用したチラシを作成し提出。さらに、授業態度や取り組み姿勢を評価40%対象とし、成果物の60%合計で総合的に勘案し、60点以上得点した者に単位を認定する。60点以下の者については、再試を実施(学則に準じて評価)。							
課題に対するフィードバック	授業毎の習得状況の確認、及び指導を実施、課題の成果については、返却。不合格者については、個別対応とする。							
履修要件(準備学習の具体的な内容)	テキストを参照し、学ぶべきことをイメージ化しておくことを望む。							

授業計画

回	単元	内容	備考
1	文章の入力	Windows10・Wordの基本操作、文字入力	
2	基本操作	文書の入力、文書の保存と読込み、印刷	
3	案内文書の作成	wordの活用、表作成と編集	
4	章末問題	画像の挿入、ワードアートの挿入	
5	練習問題	スマートアートを活用したチラシ作成	
6	練習問題	段組み、ドロップキャップの活用	
7	練習問題	差し込み印刷、はがき作成	
8	練習問題	検定過去問題 1	
9	練習問題	検定過去問題 2	
10	練習問題	検定過去問題 3	
11	練習問題	検定過去問題 4	
12	練習問題	検定過去問題 5	
13	練習問題	検定過去問題 6	
14	練習問題	検定過去問題 7	
15	まとめ	ビジネス文書作成、チラシ作成	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	レクリエーション活動援助法Ⅰ			担当者	内藤 京子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	テキスト：楽しさをとおしたところの元気づくり レクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人日本レクリエーション協会）						
科目概要	介護福祉士養成課程において、コミュニケーション能力の重要性が高まっている。本講義では、人間関係づくりに必要なレクリエーションの理論と実技を学びながら、自らのところと身体を元気にすることを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.レクリエーションとはなにかを理解する。 2.レクリエーション支援の理論を理解する。 3.レクリエーション支援の方法を身に付けることができる。 4.レクリエーションの楽しさを知ることができる。 5.自分自身が元気になるレクリエーションを楽しむ。 						
評価方法	期末に筆記試験を実施、授業に取り組む姿勢も評価、点数化し加点する。授業中に作成したプリントの課題や作品の提出に対しても、評価対象とする。60点以上を得点した者に単位を認定する（学科規定に準ずる）。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、答案を返却する。不合格者については、再試または課題を提出。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	小・中学校の音楽の時間に習った曲(童謡・唱歌等)を再確認し、色々な音楽に触れて欲しい。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	レクリエーション概論	レクリエーションとは レクリエーション支援とは	
2	楽しさの追求	手遊び体験	
3	レクリエーション支援理論	コミュニケーションと信頼関係づくり	
4	楽しさの経験	自分が楽しめるレクリエーション体験	
5	自主的・主体的に楽しむかを体験	レクリエーション・ゲーム体験	
6	個別支援案作成	個別支援案の作成方法と立案	
7	楽しさところの 元気づくりの理論	フロー・マズロー欲求5段階理論	
8	レクリエーション支援の 方法	レクリエーション支援の展開法 ソング・ダンス体験	
9	コミュニケーション・ ワークⅠ	CSSプロセス、アイスブレイキング技法	
10	コミュニケーション・ ワークⅡ	ホスピタリティ・トレーニング	
11	グループでの支援	グループづくり、グループでの支援案作成	
12	対象者にあわせた支援	グループ・レクリエーションで心がけたいこと	
13	こころと身体の元気づくり Ⅰ	チャレンジゲームの挑戦	
14	こころと身体の元気づくり Ⅱ	キャンプ体験	
15	まとめ	総まとめ、振り返り	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	レクリエーション活動援助法Ⅱ			担当者	内藤 京子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	プリント(随時配布)						
科目概要	介護福祉士として、対象者個々人に合う「活動プランづくり」、1対1の場面での「コミュニケーション」、個々人に合わせた「活動のアレンジ」などを通じて、一人ひとりの生きがいをづくりを支援する方法を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> レクリエーション計画の作成・実施能力を習得する。 様々なレクリエーションを実践し、実施能力を習得する。 						
評価方法	客観(筆記)試験、レクリエーションの発表を実施し、60点以下のものは、再試を実施する。 (学則に準じて評価する)						
課題に対するフィードバック	答案を返却し、理解が不十分な部分については、各自復習をしておくこと。						
履修要件(準備学習の具体的な内容)	実習先やインターシップ先でどのような余暇活動が行われていたかを調べておく。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	福祉レクリエーション研究とは	福祉レクリエーション研究の目的と研究方法の説明	
2	レクリエーション実技（1）	歌を使ったレク財・新聞紙を使ったレク財の実践	
3	レクリエーションとコミュニケーション	レク実践におけるコミュニケーションの意義について	
4	レクリエーション実技（2）	紙テープを使ったレク財の実践	
5	レクリエーション実技（3）	コミュニケーションを使ったレク財の実践	
6	レクリエーション財について（1）	洗濯ばさみを使ったレク財の実践	
7	レクリエーション財について（2）	レク財を対象者の4つの側面から見て、アレンジする	
8	レクリエーション実技（4）	チャレンジ・ザ・ランキング大会	
9	レクリエーション実技（5）	チャレンジ・ザ・ランキング大会	
10	レクリエーション支援案作り（1）	レクリエーション支援案とは何かグループ分け	
11	レクリエーション支援案作り（2）	各グループに分かれて支援案を作成する	
12	レクリエーション支援案の発表（1）	各グループが支援案に基づいて発表	
13	レクリエーション支援案の発表（2）	各グループが支援案に基づいて発表	
14	介護予防プログラムとは	介護保険制度における介護予防プログラムについて	
15	1～14回まとめ	まとめ、確認テスト	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	後期	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	1年
科目名	キャリアデザインⅡ			担当者	西浦 昭次 尾内 由美子		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	サービス接遇検定 公式テキスト2級（早稲田教育出版）／本校作成ワーク						
科目概要	相手に満足を提供するという視点と、接遇についてを学ぶ。介護福祉職において実践的に活かせるよう、相手の満足とは何か、具体的な考え方や行動の仕方や話し方などを身に付ける。また、漢字能力・文章作成能力の向上及び要旨読解力の向上を目指しキャリアアップを図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービススタッフの資質（必要とされる要件、身だしなみ） 2. 対人技能（人間関係、接遇知識、顧客心理、接遇用語、マナーなど） 3. 実務技能（クレーム処理、社交儀礼、掲示物作成、電話対応など） 4. 常用漢字の読み書きができ、自分の意思を正しく表現できる。 5. 平易な文章の要約ができる。 						
評価方法	期末に筆記試験を行う。また、授業への取り組み姿勢を点数化し、筆記試験の得点に加点する。総合的に60点以上得点した者に単位を認定する。評価基準については学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	試験の採点后、その結果を担当教員を通じて伝達する。また、不合格者については個別に伝達する。						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>普段の生活の中におけるあらゆるサービスについて、どのような接遇が行われているか、良いサービスや悪いサービスだと感じているものについて、意識することを期待する。</p> <p>講義時には国語辞典または漢字辞典があるとよい（電子辞書でも可）。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	概要・資質	ホスピタリティとは、敬語のしくみ 接遇用語	
2	対人技能①	クッション言葉の使い方、敬語、謙譲語、丁寧語の活用	
3	対人技能②	クッション言葉の使い方、敬語、謙譲語、丁寧語の活用、電話対応	
4	対人技能③	アナウンスの仕方、冠婚葬祭	
5	対人技能④	アナウンス文の練習問題、冠婚葬祭	
6	実務技能	クレーム処理、掲示文、問題演習	
7	専門知識	一般用語・接遇用語、対人技能演習	
8	まとめ	ケーススタディ（具体的事例）の考察	
9	漢字の意味 文章の要約	漢字の起源を知る 文章の要約練習	
10	漢字学習 文章の要約	漢字の読み書きを学ぶ 文章の要約練習	
11	漢字学習 文章の要約	漢字の読み書きを学ぶ 文章の要約練習	
12	漢字学習 文章の要約	漢字の読み書きを学ぶ 文章の要約練習	
13	漢字学習 文章の要約	漢字の読み書きを学ぶ 文章の要約練習	
14	まとめ	授業のまとめ	
15	テスト	後期試験	

履修区分	必修	単位数	2	開講時期	前期	形態	講義・演習
学科名	介護福祉学科			配当時間	30	対象年次	2年
科目名	キャリアデザインⅢ			担当者	尾内 由美子 井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	本校作成ワーク／履歴書（生協）						
科目概要	就職活動や実習を行うにあたり、自分はどうのように物事を捉えるのか、どのようなコミュニケーションの癖があるのかなど、自己分析や対人コミュニケーション実践的演習を通して、総合的に円滑なコミュニケーションの仕方を身に付ける。さらに、介護福祉士にとって介護報酬の仕組みを理解し、将来の展望も含めたさまざまな福祉サービスにおける財務の仕組みを理解し、幅広い視野を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 面接試験にも対応できる自己理解力を身につける。 2. 履歴書作成を含む自己表現力を身につける。 3. 実務において円滑なコミュニケーションを実践できる力を身につける。 4. 介護報酬のしくみを理解し、各福祉サービスの周囲を試算表や貸借対照表を用い、読み取ることができる。 5. 介護報酬と介護福祉士の給与体系が理解できる。 6. コストを意識し業務に就くことのできる介護福祉士をめざす。 						
評価方法	総合的に60点以上を得点したものに単位を認定する。評価基準については、学科の規定による。						
課題に対するフィードバック	提出物などを点数化したものを返却する。						
履修要件（準備学習の具体的な内容）	これまでどのように物事を捉えてきたか、どのような経験があり、どのようなことを学んだのかを振り返り、積極的に発言・学習できるよう整理しておくことを望む。						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	自己理解①	自己分析、自分の経験・コミュニケーションの特徴の振り返り、自己紹介文作成	
2	自己理解②	ポジティブ・フィードバック ライフラインチャート作成	
3	自己表現①	自分の強みを整理し、文章化する 履歴書作成	
4	ビジネスマナー①	ビジネスマナーの基本	
5	ビジネスマナー②	ビジネスマナーの基本	
6	ビジネスマナー②	訪問の仕方、アポイントメントの取り方 名刺交換の仕方、電話のかけ方	
7	対人コミュニケーション1	就職試験対策① (面接試験でのコミュニケーション)	
8	対人コミュニケーション2	就職試験対策② (面接試験でのコミュニケーション)	
9	介護報酬の流れ	介護報酬の流れ、関係機関とは	
10	福祉サービスにおける組織と運営	法人の種類と運営資金の流れ	
11	介護報酬のしくみと包括	包括医療、包括ケアと出来高払い方式	
12	各専門職と報酬との関係性	専門職種ごとでの加算の種類	
13	介護給付費明細書の作成、及び各様式	介護給付費請求書の作成方法	
14	介護福祉士としてのコスト意識とは	ケアや日常使用物品などのコストについて	
15	まとめ	総合評価	

履修区分	必修	単位数	6	開講時期	通年	形態	講義
学科名	介護福祉学科			配当時間	90	対象年次	2年
科目名	福祉総合（模試）			担当者	井上 千帆		
	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員による授業					
使用教材	参考書（随時紹介）						
科目概要	<p>・ 国家試験対策として過去問題に触れながら、模擬試験に取り組み今までの学習の復習を行いながら国家試験合格を目指す。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士国家試験合格できる能力を身につける。 2. 得意科目、不得意科目を明確にし、不得意科目をなくす。 3. 各回の練習問題や模擬試験の結果をしっかりと分析し次回に臨む。 						
評価方法	<p>レポート提出、確認テスト、模擬試験結果を鑑み、評価する。 60点以上の者に単位を認定する。（学則に準ずる。）</p>						
課題に対するフィードバック	<p>随時、練習問題や模擬試験を行い結果に基づいて個別指導を実施し、結果に見合ったレポートや補講を課す。</p>						
履修要件 (準備学習の具体的な内容)	<p>国家試験合格を目指して、家庭においても学習の時間を確保し、しっかり取り組むこと。</p>						

授業計画

回	単元	内容	備考
1	福祉模試対策 A ①	人間と尊厳の自立	
2	福祉模試対策 A ②	人間関係とコミュニケーション	
3	福祉模試対策 A ③	社会の理解	
4	福祉模試対策 A ④	発達と老化の理解	
5	福祉模試対策 A ⑤	認知症の理解	
6	福祉模試対策 A ⑥	障害の理解	
7	福祉模試対策 A ⑦	こころとからだのしくみ	
8	福祉模試対策 A ⑧	介護の基本	
9	福祉模試対策 A ⑨	コミュニケーション技術	
10	福祉模試対策 A ⑩	生活支援技術	
11	福祉模試対策 A ⑪	介護過程	
12	福祉模試対策 A ⑫	医療的ケア	
13	福祉模試対策 A ⑬	総合問題	
14	福祉模試対策 A ⑭	確認テスト	
15	福祉模試対策 A ⑮	確認テスト	

回	単元	内容	備考
16	福祉模試対策 A ①	人間と尊厳の自立	
17	福祉模試対策 A ②	人間関係とコミュニケーション	
18	福祉模試対策 A ③	社会の理解	
19	福祉模試対策 A ④	発達と老化の理解	
20	福祉模試対策 A ⑤	認知症の理解	
21	福祉模試対策 A ⑥	障害の理解	
22	福祉模試対策 A ⑦	こころとからだのしくみ	
23	福祉模試対策 A ⑧	介護の基本	
24	福祉模試対策 A ⑨	コミュニケーション技術	
25	福祉模試対策 A ⑩	生活支援技術	
26	福祉模試対策 A ⑪	介護過程	
27	福祉模試対策 A ⑫	医療的ケア	
28	福祉模試対策 A ⑬	総合問題	
29	福祉模試対策 A ⑭	確認テスト	
30	福祉模試対策 A ⑮	確認テスト	

回	単元	内容	備考
31	福祉模試対策 B ①	人間と尊厳の自立	
32	福祉模試対策 B ②	人間関係とコミュニケーション	
33	福祉模試対策 B ③	社会の理解	
34	福祉模試対策 B ④	発達と老化の理解	
35	福祉模試対策 B ⑤	認知症の理解	
36	福祉模試対策 B ⑥	障害の理解	
37	福祉模試対策 B ⑦	こころとからだのしくみ	
38	福祉模試対策 B ⑧	介護の基本	
39	福祉模試対策 B ⑨	コミュニケーション技術	
40	福祉模試対策 B ⑩	生活支援技術	
41	福祉模試対策 B ⑪	介護過程	
42	福祉模試対策 B ⑫	医療的ケア	
43	福祉模試対策 B ⑬	総合問題	
44	福祉模試対策 B ⑭	確認テスト	
45	福祉模試対策 B ⑮	確認テスト	